



4月号 2021-2022
No. 538

西条

第61代会長スローガン 「 伝承 そして新たなる時代へ 」

キーワード 「 挑戦 」



■ クラブ結成60周年記念事業 ■
「 災害時における資機材を西条市社会福祉協議会へ寄贈 」



ライオンズクラブ国際協会 336-A地区
2R4Z 西条ライオンズクラブ 広報誌

2021-2022 ライオンズクラブ国際協会会長

ダグラス M・アレキサンダー



テーマ 「 We Serve (我々は奉仕する)」

メッセージ 「 心からの奉仕を 」 *Service from the Heart*



2021-2022 ライオンズクラブ国際協会 336-A地区ガバナー

蔵本守雄



スローガン 「 命燃やして恋せよライオンズに 」

キーワード 「 Overcome 」



2021-2022 ライオンズクラブ第 61 代会長

曾我部克正



結成60周年記念大会 2022年4月3日(日)

大会テーマ 「 未来への提言 」

記念ゴルフ大会 2022年3月27日(日)



新 会員入会～3月第1例会～

西条ライオンズクラブ入会にあたって

加藤 正法

この度、西条ライオンズクラブに入会させていただきました、加藤正法と申します。西条ライオンズクラブには父、加藤誠也が入会しており、親子2代で活動させていただくことを大変光栄に思います。

私が高校2年生の時、西条ライオンズクラブのYE派遣生としてペルーに40日超、滞在しました。南米ペルーに行くということで、怖くて精神的に弱気になっていましたが、当時の山崎常行会長、寺田了三YE委員長に励ましていただき、勇気を振り絞って向かった記憶があります。ペルーでは現地のライオンズクラブの方々や日本人会の方々に温かく迎えられ、文化の違いなどを肌で感じ、大変勉強になりました。あの経験が、今の自分の礎となっています。

あの時から、いつか自分も先輩方のように誰かを励ませるような存在になりたいと思っていました。まだまだ若輩者ですが、皆様にご指導いただきながら成長していきたいと思いますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

1989年7月 ペルーへYE生として派遣当時の写真



結成 60 周年記念事業

～災害時における資機材寄贈～

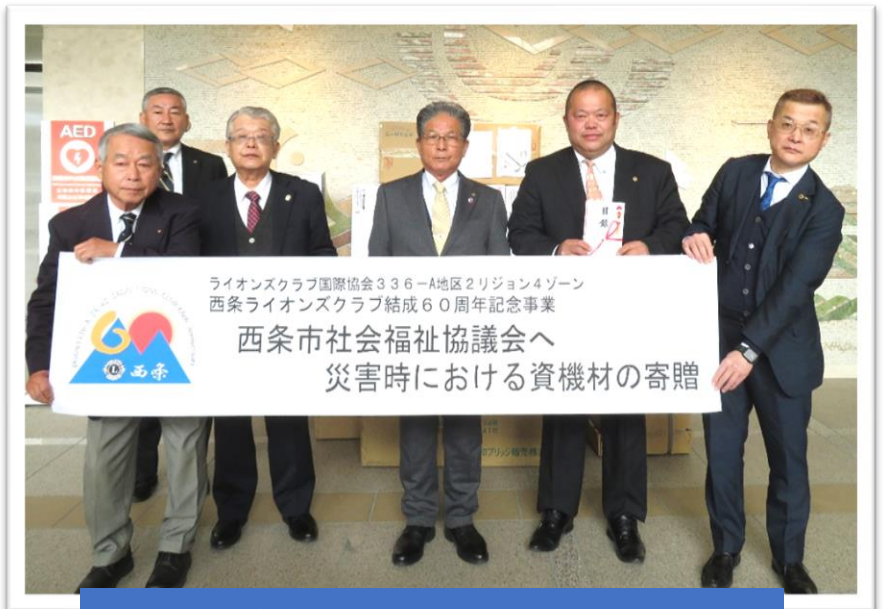
- スポットクーラー 1 台
- サーキュレーター 6 台
- マルチキャリア 2 台
- ケアスロープ 1 機

我々が生活するこの西条で、いつ起こるかも知れない災害などの有事に、この資機材が地域のお役に立つことでしょう。クラブ結成 60 周年を迎え、結成当時から変わらぬ「地域に根差した奉仕事業」をモットーに、これからも活動してまいります。

西条市社会福祉協議会での贈呈式には、クラブより曾我部会長、明比大会委員長、花山総務委員長、森下担当委員長の 4 名が出席、西条市社会福祉協議会木藤会長へ目録を贈呈し、無事に終了いたしました。

今後起こる可能性が高いと言われる「南海トラフ巨大地震」は最も心配な災害の一つですが、気候変動による天災が頻繁に生じる今日です。

人が人に寄り添うだけでなく、自然（生態系）や地球にも寄り添い行動を起こすことが今、人々に求められています。「ライオンズクラブとして今、何が必要とされ、何ができるのか」を常に考え、そして、行動を起こしましょう。



2022.3.7（月）西条市社会福祉協議会にて贈呈式



西条LC結成60周年記念ゴルフ大会の開催

高田潤一

令和4年3月27日(日)滝の宮カントリークラブで開催された結成60周年記念ゴルフ大会は、前日の春の嵐も嘘のように快晴となり、2リジョン内各ライオンズクラブ（新居浜：16名、新居浜ひうち：8名、今治中央：11名、今治くるしま：3名、伊予土居：11名、東予：7名、伊予小松：2名、西条石鎚：11名）から多数の参加をいただき、西条LC60周年の結成を祝うふさわしいゴルフ記念大会となりました。当クラブからも19名がエントリーし、ホスト役として受付や参加賞品の手渡し等、日頃の感謝をお伝えしながら、大好きなゴルフを楽しみました。コロナ禍の中、自粛、また不安と葛藤しながら過ごしている我々にとって、スコアでは凹みましたが、暖かい春の日差しと桜の花で癒された休日となりました。西条LC結成60周年結成おめでとうございます。益々のご発展を心よりお祈りいたします。



あらたまって人生論？を語るのは、真に面映ゆい思いである。昨年、市の教員委員になり、学校を訪れたり、小中学生に接する機会が多くなった。また、岡山の大学病院から近くの病院に転勤する婿夫婦が、孫を連れて近くに住むことになり、私達夫婦には嬉しい春である。この記念に、私なりの61年の人生から得た、ささやかな思いを、21世紀にはばたく、小中学生の諸君や孫に伝えようとの思いで筆をとったわけである。

まず、人生を振り返って言えることは、人生は決して“自分一人のものではない”という平凡なことである。“運”というか、偶然が進路を決めたり、多くの人たちの思いやりや好意に支えられるものであると思う。

私は、医師になって40年、開業して25年になる。医師になったのも、決して明確な決意があったわけではない。終戦直後のことで、旧制高知高校の入試が、丸亀中学に出張の形で行われ、4年生から小手調べに受けてみたら、合格してしまった。文科で志望した筈だったのに、法科系だった亡き父が、勝手に理科と願書に書いたらしい。文科ではつづしが利かない？と判断したわけである。喜ぶ両親を見、家の経済を思い、“まあ、いいや”と進学した。理科が嫌いかという、そうでもなく、それなりの楽しいものもあるものだ。また、復員前の陸軍幼年学校では、ドイツ語も勉強していたので、少しはこの面では楽をしたし、医学部を選んだのも決して人類愛とかシュバイツァー博士や野口英世博士に憧れるなどの高尚なものでもなく、ドイツ語を重視する医学部が受験に有利だからとの単純な動機と、高校時代の先輩が京都大学在学中で、試験の間の面倒を見てくれたからであった。

外科の道もそうである。早く就職できる点もあったが、……“私が教えた中で、もっとも興味があったこと”……といった試験問題でもうかがわれる。恩師の青柳先生のおおらかなお人柄にひかれたてんもあるが、アルバイトに追われて勉強できなかった私には、外科学ぐらいが合格点であったというのが、案外本当である。こうして書いてゆくと、きりが無い。赴任や結婚や医師会の仕事や趣味の世界と、本当に多くの出会いがあり、選択の機会があった。その時その時は、きっとこれしかない、真剣に、また切羽詰まった気持ちになったと思う。だが人生は、捨てる神あれば拾う神ありで、もっと幅広くゆとりのあるものだとは思う。

次に、私のモットーは？と聞かれたり、書かされると、“一日一歩”とする。字数が少なく書きやすいからだけでなく、外科医としての修練時代、この言葉でどんなに勇気づけられたことか……。軍隊帰りの先輩に手を叩かれたり、怒鳴られたり、手術場で大いに鍛えられた。口惜しい思いを涙を堪えて頑張った。明日は今日の自分より、少しは前進するだろう。明日の自分は今日の自分より、少しはましな外科医となるだろうと、自分を慰めたものである。特に技術の進歩を問われる分野では、そんなに突然飛躍的に腕が上達するわけにはいかない。毎日の積み重ねが大切としみじみと思う。

水前寺清子の“三百六十五歩のマーチ”の歌詞“三步進んで二歩退がる”ではないが、人生生きている限り、日の当たる刻もあれば暗い夜もあり、昇りもあれば降りもある。でも、昨日の自分と違った明日の自分があり、明るい明日を信じて生きてゆきたいものと思っている。親・兄弟・多くの人たちに支えられた人生、いろいろな出会い、そして運命もある。明るく、少しずつ人生を歩んでいきたいと思う。



シリーズ 伊予西條遺産

番外編・・・

三品容齋(1769年～1847年)と 擇善堂の創設

明和6年(1769年)宇摩郡小林村(四国中央市土居町小林)で高橋基内の次男に生まれる。
3つ違いの兄は、伊予聖人と称えられた小松藩の儒官「近藤篤山」。
20歳の時、兄篤山と共に尾藤二洲の門に入る。

寛政9年西条藩士「三品為道」の養子となった。

西条藩主8代松平頼啓、9代松平頼学の侍講として、藩校『擇善堂』の教官として約50年に渡り教育活動に励み、馬廻組頭の地位を与えられた。西条藩儒学の中興の祖と称された。弘化4年(1847年)8月79歳で没す。

西条光明寺の古御堂に葬られたが、現在、荒木満福寺内にて西条史談会による標柱が建てられている。



荒木万福寺にある「三品容齋」の標柱

出典：西條人物列伝



擇善堂の創設

西条藩8代松平頼啓(よりゆき)は、文化二年(1805年)頃、西条陣屋の北堀端に藩校(擇善堂)を創設した。建物は、講堂、素読書、寄宿舎、書庫、炊事場より成っていた。職員は、学頭2名、教授兼大舎長2名、助教授兼舎長3名、句読師10名であった。藩士の子弟男子7歳のものが入学し、最初の段階は素読であり、初級(四書)、第一級(五経)、第二級(十八史略、国史略)、第三級(三史略講義)に分かれていた。授業は、午前八時～午後二時までで、毎月行われる試験によって進級の可否が決められた。「三度落第をしたものは三か月間試験を受けることができない」というような規定もあった。素読が終了すると、13, 4歳で独習生となり、初級(新作、孟子、史)、第一級(論語、外史、孫子)、第二級(春秋左伝)、第三級(漢書、日本書紀等六国史)の段階に分かれ、独習生は、全員寄宿舎に入った。教官の講義は3回/月行われ、試験は毎年3月に1回、定府である藩主に代わって家老臨席のもとに実施された。

擇善堂の学頭には、幕末期の藩政参与、尊王活動家として活躍した「尾崎山人」がいる。

明治元年(1868年)に、西条藩の招きによって擇善堂の教官となり、ついで学頭として就任した。明治維新後は、文部館総督を務め、廃藩置県後に、郷里において後進の指導にあたった。

出典：愛媛県生涯学習センターデータベース「えひめの記憶」



【西条小学校の公明の変遷】

1805年	(藩校)擇善堂	
1871年	西条県学校	廃藩置県、文部省設置
1872年	一番小学校	
1874年	擇善学校	
1887年	明屋敷小学校	学校令公布
1892年	西条尋常小学校(明倫学校と統合)	第2次小学校令公布
1927年	西条尋常高等小学校	
1941年	西条国民学校	国民学校令公布
1947年	西条小学校	教育基本法施行



西条ライオンズクラブ 会員募集中!

We Serve

◎ライオンズクラブとは

世界最大の社会奉仕団体のことです。
世界で約 200 以上の国または領域にあり
49,000 を超えるクラブが存在し、140 万人以上の会
員がいます。あなたも世界の一員になりませんか。

◎西条ライオンズクラブは

国内で 334 番目、愛媛県下では 9 番目のクラブとして
結成されました。「We Serve～我々は奉仕する～」を
合言葉におなじ志をもつ仲間同士が集まって奉仕活動
を行っています。人の為に、社会の為に、一人ではでき
ないことを、出会いを通して集まった会員が力を合わ
せて、それぞれの地域において社会奉仕に貢献してい
こうという団体です。



献血が必要な患者さんを救うため
皆さまの助け合いをお願い致します!

令和4年4月20日(水)
10:00 ~ 16:00

献血のご予約は
コチラから!

西条市総合福祉センター
西条ライオンズクラブ協力

編集後記



桜の花が満開となり、春らしい気候となりました。3月21日からは、まん延防止対象地域の解除に加え、春休みにも入り、人流が増えていることもあり、コロナ感染者数は、愛媛県内で300人以上、西条市でも30人以上と未だ高止まり状況です。そんな中、4月3日(日)に1年越しで予定されていた結成60周年記念式典は残念ながら中止となりましたが、60周年記念ゴルフ大会は敢行することができ、何とか4月号に掲載することができました。

また、60周年記念誌は、来賓の方々をはじめ、歴代(55～61代)会長のお祝いの言葉を頂戴し、無事発行できることとなりました。関係者の皆様に改めて感謝および御礼を申し上げます。コロナ禍が終息し、何とかいつも通りアクティビティができるようになって、「社会奉仕」に貢献する西条LCの業績を目一杯会報誌「西条」でPRできるよう、願ってやみません。

MC・広報委員会 高田潤一



わたしの好きなもの



No.38 高橋雅頭

- 好きな食べもの
甘いスイーツ
- 好きな本
キングダム(漫画)
- 好きな車
コペン
- 好きな場所
車で行ける絶景の所(UFO ライン等)
- 好きな芸能人
水谷 豊(相棒)
- 好きな映画
007(ジェームズボンド)
- 好きな(オススメ)お店
コストコ・さいさいきて屋(今治)
- 最近、感動したこと
大谷選手・藤井聡太君 活躍
- 今、はまっていること
セブンイレブンのコーヒー



西条ライオンズクラブ

発行者 会長 曾我部克正
幹事 植木光夫
[MC・地区誌編集委員会]
委員長/副委員長 高田潤一/二瓶大介
編集委員 越智英明・村上公明・寺川治美
盛實正人・小野雅志
例会日 毎月 第1・第3火曜日(12:30~13:30)
例会場 西条商工会館
発行 西条ライオンズクラブ事務局
印刷 プリントワールド ONO

〒793-0027 愛媛県西条市朔日市779-8
西条商工会館1F
TEL(0897)56-3980
FAX(0897)56-9251
E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ http://saijo-lions.jp
facebook http://facebook.com/saijo.lions/